

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
前橋市元総社町六七番地
電話 027・255・3434
FAX 027・255・3435

吉本ばなな原作の映画『キッチン』と小川系原作の映画『食堂かたつむり』をDVDで見た。そして、大阪の新任教師だった黒田恭史原作『豚のPちゃんと32人の小学生』の映画化『プタがいた教室』は、『プタを飼って、飼育した後、食べる』という実践教育の映画。そこで「命」「食」「教育」を考えていく。育てたプタは毎日食卓に出る豚肉とは違うのか？子供たちが真剣に話し合っている。映画『食堂かたつむり』では、母親が長年子供のように添い寝までして育てたプタのエルメスを自分の結婚式に娘の倫子に全て調理してもらおう。世界中の豚肉料理が並ぶ。何故かプタつながりになったが生命の尊さと食に対する感謝の思いが心に深く残る。

福島原発の放射能漏れの事故後、漁業、農業、酪農に携わっている人々にとっては一日一日の生活、そして先行きの見えない不安を抱え、それでも前に歩んでいかなくてはならない現状がある。賠償問題もなかなか進まない。また、福島第一原発二十キロ圏内の警戒区域の人々の生活の現状も報道では伝わらない部分も多いと思う。食や節電も含め、今、私たちに何が出来るか？を考え実行し、改めて毎日、食生活を普通におくれる幸せに感謝しなければならないと思う。

学生の頃に食べたカレーライスの美味い感覚、満足感は、睡眠と同じように「食べた!」「寝た!」この一感が年齢とともに変化してきている。バランスの良い食生活と十分な睡眠と安定した精神状態・・・いつでもパフエクトに出来れば・・・と思うが一步の努力が不足してしまう事が情けないというか、悲しい。炊きたてのご飯に少しのぬか漬(古漬)を細かく切って根生姜でも入れてこれこそ究極の食卓だと幸せに感じた後に「これではいけない」と冷蔵庫の掃除を始める。そして、食材を揃えにスーパーに出かけ、魚売場、野菜売場、肉売場を回り、手問ひまかけて料理をする。時間もすっかりかけて食事をする。美味しい感覚より、とにかく食べなくては・・・という思いの方が先にたつ。食材選びの時には、産地表示を見る・・・そして福島産、宮城産を手取る。産地消費を心がけ群馬産にこだわり続けて今まで買物をしてきていた自分の中で何かが変わってきている。安心して買える食材を・・・と生産者を信頼するしかない。ノイエスに来廊される人の中にも、自宅で野菜を作っている人が多い。特に青菜に関してはセシウムが大丈夫か・・・と聞かれるが、無責任に答えられない。原発の事故以前から始まっている食に対する信頼感が今後さらに問われ続け、これからの日本にとって食は重要な部分になっていく。

ノイエス朝日のご案内

白川昌生展 駅家の木馬 企画

前橋の町の、忘れられていたもうひとつの物語

会期 八月四日(木)～十日(水)
午前九時三十分～午後五時

前橋市にある弁天通り商店街の中に江戸時代から続いている浄土宗のお寺、大蓮寺がある。ここで「駅家(うまや)の木馬祭り」、別名「車(くるま)の木馬祭り」が始まったのは明治十八年、一八八五のことである。しかし戦前まではすっかりこの祭りは忘れられてしまった・・・大蓮寺で最近発見された縁起記録本にこのことが書かれていた。

この記録をもとに、二〇一一年にふたたび、大蓮寺の前に「群馬の木馬」をつくり、前橋の町の再生のために二二五年後の今「U-1、ふー2、みー3とさらにふー2を足した年、二二三年に二年をたす二二五年後」にふたたび木馬がよみがえる。今回のノイエスでは、その物語のドローイングを十数点展示いたします。『駅家(うまや)の木馬』その由来(白川昌生著)の小冊子は来廊された希望者には差し上げます。

無碍なるもの

わたなべもくち 木・竹 籠橋宗範 陶 ふたり展

群馬が出会わせた工芸家 Part 企画

会期 八月二十日(土)～二十八日(日)
午前九時三十分～午後五時

ノイエスの夏季休暇のお知らせ

今年の夏季休暇は左記のとおりです。

八月十二日(金)～十八日(木) 七日間

展示会のお問い合わせにつきましては、展示会会期中にお電話下さい。(電話 027・255・3434)



ノイエスのティータイム

三月十一日の東日本大震災以後
久しぶりに上京しました。



知人の作家の出品している展示会が主な目的でしたが、上野の東京国立博物館・平成館で「空海と密教美術展」、国立西洋美術館で「古代ギリシャ展」、竹橋の東京国立近代美術館で「パウル・クレー」そして乃木坂の国立新美術館で「ワシントン・ナショナル・ギャラリー」毎日書道展の特別展示「宇野雪村の美」を見てまわりました。

展示会場はどこも女性客が多く、相変わらず作品鑑賞をじっくりと出来る空間ではなく、なによりも驚いたのが観覧料が高くなっていることでした。企画展示会は、ほとんどが一五〇〇円になっていました。企画内容が充実しているものもあれば、期待はずれで「これ・・・」と少々がっかりして足が重くなる展示会もありました。

大がかりな企画展は二年も三年も準備をして、担当者は休暇もなかなか取れない状態が続く、心身ともに疲れ果て・・・始まってとりあえずホッとして。そして入館数を気にして、反響を敏感に感じて。新聞報道がどのようになされたか？テレビ取材はあったか？と企画側は大変と言えは大変でしょうが・・・。

でも、時を越えて夢を与えてくれる作品を見に行く人々の期待を裏切らないような作品と展示方法と心遣いがなされればと思いましたが、車椅子で来場されておられる方も数名いらっしゃいましたが、展示作品と向き合える状態ではない鑑賞環境にもいささか個人的にがっかりでした。

見る側として、企画側としても大いに勉強になった一日でした。今年から来年にかけて国立西洋美術館でプラド美術館所蔵「ゴヤ」があり、来年の二月十日～五月六日まで東京国立近代美術館で生誕一〇〇年「ポロック展」があるそうです。ぜひ満足のいく展示会であることを願っています。そして、ノイエスは皆様に楽しんでいただけるような作品展示、ティータイムをゆっくり過ごせるコミュニケーションハウスとしての空間を提供できるようにしていきたいと考えています。九月からの展示会にも是非お出かけ下さい。スタッフ一同、お待ちしております。